

第3学年 総合的な学習指導案（郷土学習指導案）

日 時 平成28年11月9日（水）
学 級 3年1組（男12名 女15名 計27名）
場 所 3年1組教室
指導者 村上 拓三

1 題材 「釜石の未来を考える」

2 ねらい

地域社会の一員としての自覚をもって地域の発展に努めている人々について理解し、自分にできることを考える。また、釜石の災害と復興の歴史を理解し、郷土の復興と発展に貢献しようとする態度を身につける。

3 題材設定の理由

（1）価値について

本校の総合的な学習においては、自己の生き方を考え、よりよく生きていこうとする態度を養うことを目標としている。3年間で、自分の生きる郷土を様々な角度から見つめ、そこに生きる自己の存在を位置づけることを目指すものである。第1学年は郷土の知識を深めること、第2年生は郷土の産業について理解を深めること、第3年生は郷土の未来に希望を持たせることを中心に系統的な学習を展開していくこととした。それにより、自己の現在と未来の生き方を考える機会にしたいと考える。

第3学年では、釜石の未来を考えることにより、地域の一員であることを自覚し、自らができることを考えていくことを目的としている。そのため、意見交流を深めることで将来の選択につなげさせることを教材設定の最大のねらいとなる。

（2）生徒について

東日本大震災から5年がたちまちは復興に向けて多くの方々に支えられている。その中で、本学級に対し「釜石は復興してきているか」というアンケートをとったところ肯定的な意見は81%であったのに対し、否定的な意見は15%、分からないと答えた生徒は4%であった。否定的な意見としては、「放置されているように感じる」「海の方が何も無い」などという回答があった。また、釜石の復興にどのように関わっているかを調査したところ、ボランティアやイベントへの参加など積極的な意見がある中で、何もしていないと答えた生徒が33%見られた。このことから、日々の生活の中で、釜石の復興について意識していない生徒が多く見られると感じた。

そこで、釜石の未来に期待することを考えさせたところ、「施設が増えること」「イベントが多く活気がある」などの視覚的なものや、「誰もが暮らしやすいまち」「今の自然を守り続けるまち」「楽しいまち」などの意見が挙げられた。これまで復興は人ごとに感じていた生徒が多かったが、総合的な学習の時間を通し、少しずつではあるが、釜石の復興と未来について意識が高まっている様子が見られるようになってきた。また、進路についても将来の夢が漠然としていた生徒の中に、将来的に釜石の発展のために、地元で働きたいと考える生徒も出てきている。

以上のことから、これからのまち作りを担うであろう中学生が、郷土を良いものにすべく、復興状況と今後の計画を理解させたいと考えた。さらに、中学生自らが考えるまち作りを提案することによって、地域社会の一員としての自覚と発展に努めようという意識を高めたい。また、将来に向けて自らの進路選択につなげていきたい。

(3) 題材について

本題材は、さまざまな歴史的背景と復興状況を理解するなかで、釜石の未来について考えていくものである。そのため、郷土の歴史を学ぶと共に、何度も被災したまちが復興してきた背景を知る必要があると考えた。さらに、復興するためには多くの人の支援と知恵が必要であることを理解させたいと考えた。以上のことを理解したうえで、釜石の未来を思考させたい。

そこで、生徒に釜石の未来について思考するために、地域づくりにかかわる方々の協力を得ながら進めていきたいと考えた。現在の復興状況と今後のまちづくりについて話を聞くことによって、近い未来の釜石を想像させたい。そして、調査内容を通して各班で考える釜石の未来を考えさせたい。さらに、その未来が実現可能かどうかをグループ内で話し合わせることで、他者の意見を取り入れながら、自らの考えを深め、より釜石の未来を具体化させたい。最終的には、自らが今後どのように地域に関わっていけるかを考えさせることによって、今後の活動への意欲や責任感が高まっていくだけでなく、生徒の自己肯定感も高まり、相乗効果が期待できるものとする。

以上のように、他者との関わりから自ら考えることの充実を目指していきたい。そのため、よりよい活動を行うため、話し合い活動を行い、協力していくことで、地域の一員としての自覚と自主的・実践的な態度を身につけられると考え本題材を設定した。また、ここで身につけた力が地域の復興や生徒の将来において必ず生きるものと信じている。

(4) 研究主題との関わり

「自己肯定感をもち、復興に貢献しようとする生徒の育成」

～いのちを大切に、郷土を理解する活動を通して～

自己肯定感とは現在の自分に愛着と誇りを感じることに捉えた。そこで、3年間の総合的な学習の時間を系統化することで、郷土への愛着と理解を深めることが必要不可欠と考えた。そのことが起因となり、自らの郷土への誇りを感じ、そのことが自己への肯定感につながっていくと考え、本カリキュラムを設定した。

第1学年では、郷土への理解を深める活動を通し、郷土への愛着、誇りを喚起するところが主目的である。

第2学年では、釜石の産業、職業の学習を通して、釜石の魅力を感じることを主目的とする。

第3学年では、2年間で培ってきた知識と経験、愛着と誇りを土台として釜石の未来を考える。郷土への理解と愛着が深まったところで未来を考えることは、自己と郷土への責任をより深く感じ自己の未来への明るい展望と郷土発展への寄与を考える礎となる。これが主目的である。

以上3年間の総合的な学習を系統化することで、相互作用が生まれ、より深い学習効果を得られると考えた。また、本校の研究主題にも迫ることができると考えた。

(5) 単元目標

釜石の自然、町、人々を愛する心を育むため、釜石の未来について考えることによって、自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動する力を身につけることができる。

(身につけさせたい資質や能力)

〈学習への主体的・創造的な態度〉

- ・郷土について関心を持ち、郷土について意欲的に考えたり調べたりする。

〈課題設定の能力〉

- ・郷土を知り、郷土の魅力を考えたり、伝えたりする方法を見出すことができる。

〈問題解決への思考・判断〉

- ・郷土の発展について、自ら考え、課題解決に取り組むことができる。
- ・意見交流を行うことによって、主体的に判断し、自らの考えをもつことができる。

〈学習活動に関わる技能・表現〉

- ・郷土の発展について発表・表現ができる。

4 指導計画

	題材	具体の21項目との関連
第1時	まち作り講演会	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第2時	艦砲射撃講演会	⑫【自分と地域社会】
第3時	東京と釜石を比べる	⑬【地域づくり】
第4時	自ら釜石の未来像を考える	⑬【地域づくり】
夏課題	年齢別・職種別に釜石の未来に期待することを調査する	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第5時	講演会 「オープンシティ釜石」これからのまちづくり	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第6時	災害の歴史を調べる	⑫【自分と地域社会】
第7時	災害の歴史をまとめる	⑫【自分と地域社会】
第8時	災害の歴史を発表する	⑫【自分と地域社会】
第9時	釜石の未来を考える（テーマ設定）	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第10時	釜石の未来を考える（未来を考える）	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第11時	釜石の未来を考える（考えを深める①）	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第12時	釜石の未来を考える（考えを深める②）	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第13時	釜石の未来を考える（考えのまとめと発表準備）	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第14時 本時	釜石の未来を考える（意見交流会）	⑬【地域づくり】 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】
第15時	自らの未来を考える	⑫【自分と地域社会】

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①釜石の未来についての意見を共有することにより、まちづくりへの意欲を高める。
- ②意見発表や他者の意見，講評などから，これまでの活動を認め合わせる。

(2) 本時の評価規準

身につけさせたい資質や能力	評価規準
問題解決への思考・判断	意見交流を行うことによって、主体的に判断し、自らの考えをもつことができる。

(3) 本時の指導

調査活動により得た情報と話し合いから導き出した釜石の未来を提言させる。その内容に対し、意見交流や講評から、互いに認め合えるような活動にする。また、意見内容から今後自ら関わられることを考えさせる。

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点・支援	評価
導入 3分	1 はじめの言葉	○前時に各班で作成した、釜石の未来を黒板に掲示しておき、話し合いの心構えをつくる	
	2 ゲストの紹介	○各班の意見が今後の町作りに反映されるかもしれないことを伝える	
釜石の未来を考えよう。			
展開 30分	3 本日の目標とゴールの確認	○本時のゴールと進め方を確認させる ・各班の釜石の未来を聞き、自らのできることを考える。	意見交流を行うことによって、主体的に判断し、自らの考えをもつことができる。 【問題解決への思考・判断】
	4 意見交流 釜石の未来について意見を交流する ①班毎の考えを発表する ②全体で交流する ※各班の発表の感想を記入する。 ※ゲストにも講評をまとめてもらう	○これまでの活動を振り返り、意見が出されるように支援する ○各班で話し合った結果を、全体に意見として伝えられるように支援する ○少数派の意見、気持ちを大切に扱い、全員が納得のいく形になるように支援する ○質問や意見を取り、全体で共通理解させられるように支援する	
終結 17分	5 活動の振り返り ①各自の感想を発表 ②ゲストからの講評 ③発表会の感想を書く	○本時の活動を通して、気づいたことや考えたことなど、学習プリントに記入するように助言する ○何名かに発表させ、考えたことを共有させる	
	6 先生から	○活動の中で良かった点にふれ、今後の実践意欲を高める	